



# Feng-Shui Gallery

special edition vol.86

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

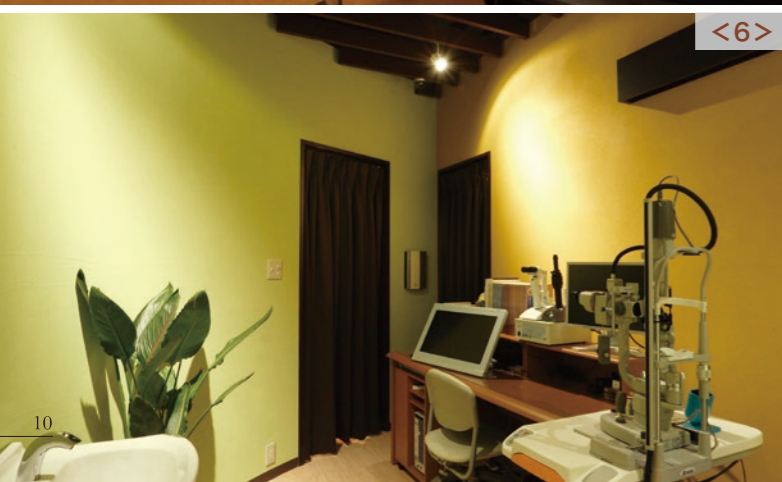
## 『色彩情報のある空間』

～アクセントカラーとベースカラー(オフィス・店舗編)～

写真<3>集中力を要する作業空間は、ブルー系統の色彩を用いることで脳を沈静化し、集中力を高めて業務に取り組めるようになります。床の色を濃くすると落ち着いた印象の空間となり、より作業に没頭できるデザインといえます。写真<4>ブルー系統の色彩でも、薄めのパステルカラーを用いた場合には、明るくすっきりとした印象の空間となり、アクセントカラーを目立たせる補助色としての働きをします。会議室などは、「活発な議論」と「落ち着いたミーティング」など、相反する状況下での使用も考え、色彩を選定する必要があります。写真<5・6>クリニックなど医療機関の空間にも、アクセントカラーとベースカラーによる色彩情報を施すことで、一般的な白く寒々しい空間と差別化でき、診療に訪れる患者さんたちが安心して治療を受けられる空間づくりが可能です。



写真<1・2>オフィスの執務室、特に営業職のスタッフが多いエリアには、オレンジ色のアクセントカラーが適しています。オレンジ色には、エネルギーを高めてくれる働きがあり、アクティブに業務に取り組めるような執務空間を構成することができる色彩です。周囲のベースカラーをイエロー系にすることで、前向きでポジティブな気持ちになり、相乗効果が望めます。



オフィスや店舗空間にも、アクセントカラーを用いることで空間に良い影響を与えることができます。

執務室・会議室・店舗の場合は業種と、その空間の役割を考慮してそれぞれに適した色彩を選定することが大切です。